

主な主催予定事業の紹介


第30回放射線利用総合シンポジウム

- ・テーマ：関西の放射線等利用施設、機関の現状と将来展望
- ・主催：公立大学法人大阪 大阪府立大学研究推進機構
一般社団法人 大阪ニュークリアサイエンス協会
- ・2022年1月17日（月）9:40-17:05
会場：ONSA 本部（大阪市中央区南船場 3-3-37 サンエイビル 4階、事務局）
主に Web 開催
詳細は、ONSA ホームページをご覧ください。（<http://onsa.g.dgdg.jp/sympo030.htm>）

放射線利用に関する優れた研究・活動の顕彰と支援

放射線や放射性同位元素等に関わる優れた研究・活動の奨励のために ONSA 賞を贈ります。広く企業、学校、研究機関などにおいて、関係する研究、産業における利用の促進や普及、または人材育成での優れた業績を対象としています。

今年度の募集期間は、2021年12月3日から2022年2月25日（消印有効）です。詳細は、ONSA ホームページをご覧ください。（<http://onsa.g.dgdg.jp/onsasyou00.htm>）



開催報告

第74回放射線科学研究会

テーマ：核融合開発の現在
主催：（一社）大阪ニュークリアサイエンス協会（ONSA）
日時：2021年11月29日（月）13:30～17:10
開催方法：WEB 開催を主とするハイブリッドによる
講演：

1. 核融合研究の100年史と展望

大阪府立大学 研究推進機構 放射線研究センター 教授 松浦 寛人

いわゆるゼロカーボンの手段として、政権与党の選挙で論じられ、ベンチャー企業の設立が報じられるなど、核融合研究をめぐる状態はこれまでにない状況にある。しかし、安易に「クリーン」を強調したり、実用化までに克服すべき課題を見誤ると、先行した核分裂の二の舞になりかねない。本講演では、核融合反応の発見まで遡り、核融合研究のエピソードや達成点を時代ごとに紹介し、核融合の将来が議論された。

2. わが国の核融合研究開発と量子科学技術研究開発機構（QST）の役割：

原型炉研究開発ロードマップ、イーター計画、幅広いアプローチ活動を中心に

QST 量子エネルギー部門 研究企画部 部長 東島 智

カーボンニュートラルの実現が不可避とされる 2050 年頃をターゲットに、わが国は、太陽が輝く源である核融合を地上で起こす研究開発を、原型炉研究開発ロードマップに沿って進めている。